

ケロちゃん通信 第17号

2016年 11月



ながおか医療生協
あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1
 電話番号0258-36-5810
<http://www.nagaoka-iryuu-seikyuu.jp/>

11月の診療予定

☆インフルエンザ発生のニュースもきかれる季節になってきました。小さい赤ちゃんのRSウイルス感染症も例年になく流行しています。まだおたふくの流行も続いています。これから寒くなってきますが体調にはお気を付けてください。

☆インフルエンザワクチン専用外来は、11月12日（土）の予約はもう一杯になりました。平日と12月3日（土）はまだ少し余裕がありますので、現時点では予約可能です。

☆当院にとって2回目の冬を迎えます。昨冬のような雪による交通渋滞にならないように祈るばかりです。正面玄関脇に、自転車置き場の邪魔にならないように木を2本植える予定です。少し緑が増えます。雪が降ったら、屋外の花は春までお休みになります。少しさびしくなりますが、その分室内は温かい雰囲気にしていきたいと思えます。



☆院内の折り紙の飾り物は、当院のスタッフが空き時間を利用してお子さんの笑顔を思い浮かべながら作成しています。お子さんと一緒に楽しんで頂ければ幸いです。



11月の休診予定：ありません。

11月12日 午後：インフルエンザワクチン外来(予約のみ)

		月	火	水	木	金	土
あたごこどもクリニック	8:35 ~ 12:00	吉川	吉川	吉川	吉川	吉川 本 川 間 (4・18日)	吉川
	13:45 ~ 15:30	乳児健診 予防接種	乳児健診 予防接種 (第1・3週) 発達外来 (第2・4週)		乳児健診 予防接種	乳児健診 予防接種	
	15:30 ~ 17:30	吉川	吉川		吉川	吉川 本 川 間 (4日)	

受付開始：一般診療は午前8時35分、午後15時30分です。

☆一般診療

診療時間内に受診ください。予約は不要です。付き添いのお母さん等が体調不良の時もお気軽にご相談ください。緊急の場合や、特別な相談がある場合は、まずお電話ください。

☆発達外来 (第2・4火 13:30~15:30)

発達が心配、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくをおこしやすい、ひきつけがある等の発達や神経に関する心配がある方もお気軽にご相談ください。

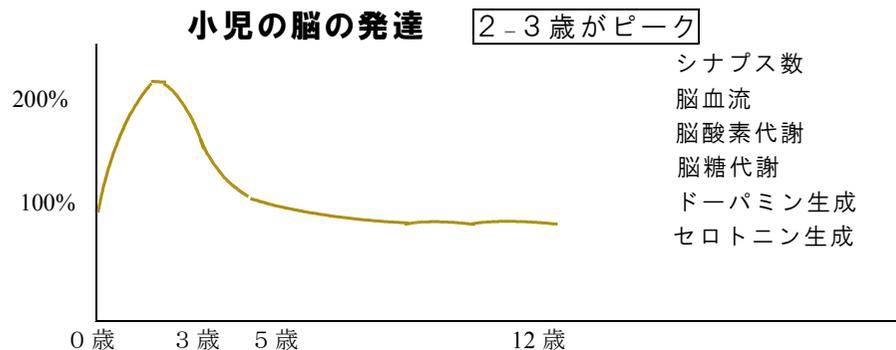
☆アレルギー外来(原則 第1・3金 9:00~12:00)

食物アレルギー、喘息、花粉症などでお困りの方は、ご相談ください。☆予防接種、乳児健診、発達外来受診希望の場合には、電話でご予約お願いいたします。

☆生協こどもクリニックとも協力して診察を行っています。病児保育室「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもできます。

かぜ薬とけいれん

☆こどもの脳は活動が活発で、特に2-3歳くらいのお子さんは、脳の血流や代謝が成人の2-3倍あります。かつ水分が多く、髄鞘という電気を遮る構造が未熟なため、とてもけいれんを起こしやすい状況にあります。(下図)加えて日本や東アジアの子供は欧米の子どもに比べてけいれんを起こしやすい体質を持っているといわれています。



☆インフルエンザ、突発性発疹(HHV6)、ロタウイルスは、日常診療で経験するけいれんを起こしやすい3大ウィルスとされています。これらに加えて、けいれんを起こしやすい薬などは使用しないように注意が必要です。

☆抗ヒスタミン薬は、アレルギーの時に使われる薬です。ヒスタミンは、アレルギー反応を起こす物質で、それに抗する「抗ヒスタミン薬」は、アレルギーを抑える作用があります。しかしアレルギーは抑えますが、分泌物を減らし膿の排出を遅らせ、中耳炎などを起こしやすくする作用もあります。鼻の粘膜が渇きすぎて鼻血がでやすくなることもあります。かぜの時に鼻水止めとして使われている場合もあるようですが、本来アレルギーの薬なので、当然効果はありません。かぜには使うべきではありません。

☆ヒスタミンは、脳でも重要な働きをしており、こどもの脳の発達を促したり、けいれんを抑制する働きもあります。脳での「抗ヒスタミン作用」は、けいれんを誘発したり、脳の発達に影響を及ぼす(傾眠、注意力減退、神経過敏、不眠)ということになります。こどもの眠り薬や乗り物酔いの薬も抗ヒスタミン薬が使われている場合もあります。昔からある第一世代の抗ヒスタミン薬や市販のかぜ薬の抗ヒスタミン薬は要注意ですが、最近の第二世代の抗ヒスタミン薬は、脳に対する作用が少なく安全になってきています。具体的にはアレグラ、アレジオン、ザイザルなどの第2世代の抗ヒスタミン薬は子どもにも使える安全な薬と言えます。また抗ヒスタミン薬ではありませんが、抗アレルギー薬のケトチフェン(ザジテン)もけいれんを起こしやすいので要注意です。もちろんアレルギーの治療で必要な場合には内服したほうがよいですが、かぜなどでの安易な使用は控えた方がよいと思います。

☆テオフィリン：最近あまり使われなくなりましたが、昔は喘息といえば、テオフィリンの内服(テオドール)や点滴でした。今のお父さんお母さん世代も子どもの時に使用した経験があるかもしれません。テオフィリンを使用すると、特に発熱しているお子さんでは、けいれんを起こすと止まりにくくなるという危険性が指摘されています。個人的にも重症化したけいれんのお子さんをたくさん見てきました。喘息の治療は、テオフィリンからステロイドや抗アレルギー薬に変わり、テオフィリンによるけいれんは今ではほとんど見なくなりました。

☆その他にもいくつかけいれんに注意すべき薬、薬の組み合わせはありますが、当院では本当に必要な場合以外には使用しておりませんのでご安心ください。

